

和歌山県野菜振興計画 概要

目標：収益性の高い魅力ある野菜産地の形成


計画期間：2026～2030年度

1 本県野菜生産の現状

栽培面積 1,308ha(2023年)：2018年から421ha(△24%)減少
 産出額 111億円(2023年)：2018年から34億円(△23%)減少
 農家数 3,640(2020年)：2015年から817(△18%)減少
 施設整備 簡易なパイプハウスの施設面積は約5割
 ※ 栽培面積と産出額は、主要19品目の値を合計したものであり統計公表値とは異なる

2 野菜振興に向けた取組方針

- 1) 気候変動に対応した生産技術の導入と生産基盤の強化
 - ・対策技術の開発及び優良品種の育成
 - ・高温対策資材、機器の導入
 - ・耐風性、耐暑性ハウスの導入
- 2) 収益性の向上
 - ①生産性の向上
 - ・スマート農業技術の導入による高品質、多収化
 - ・換気やかん水など栽培管理の自動化による省力化
 - ②コスト削減
 - ・省エネ技術、設備の導入
 - ③販売強化
 - ・直売所やeコマースの活用など、多様な販売を支援
- 3) 担い手の育成・確保
 - ①大規模経営体の育成
 - ・地域計画に基づいた農地の集約化
 - ・栽培管理の自動化等による省力化
 - ・農繁期の労働力確保の支援
 - ②新規就農者の確保、育成
 - ・産地受入協議会等による就農支援
- 4) 水田農業の推進と裏作の拡大
 - ・機械化一貫体系の導入
 - ・農作業受託組織の育成

 1経営体あたりの経営面積の拡大

3 栽培面積・産出額の目標

2023 (現状) 2030 (目標)
 栽培面積 1,308ha → 1,214ha
 産出額 111億円 115億円

	栽培面積 (ha)		産出額 (億円)		平均経営面積 (a/経営体)	
	2023年	2030年	2023年	2030年	2020年	2030年
野菜全体	1,308※	1,214※	111※	115※	24.5	25.5
トマト	76	71	19	20	19.5	20.3
いちご	27	25	14	16	13.6	14.3
えんどう(施設)	62	59	21	21	12.7	13.5
(露地)	136	125			11.0	11.4
キャベツ	172	162	5	5	25.3	26.7
はくさい	122	115	4	4	19.6	20.6
ブロッコリー	89	84	2	3	12.6	13.3

※ 栽培面積と産出額は、主要19品目の値を合計したものであり統計公表値とは異なる

4 品目別振興方針

- 1) まめ類
 - ・自動換気装置の導入による高品質、多収化(空気さや対策)
 - ・省力化が期待できる早生で大きさな短節間品種の育成
 - ・高温下でも収量性の高い品種の育成
- 2) 果菜類
 - ・ハウスの高度化や環境制御技術の導入による高品質、多収化
 - ・いちご「まりひめ」の親株の安定供給体制の整備
- 3) 葉菜類
 - ・うね立て同時施肥機、定植機など機械化一貫体系の導入推進
 - ・ドローン防除等作業受託組織の育成
- 4) 根菜・茎菜類
 - ・定植機、収穫機など省力化機械の導入推進
 - ・県産種しょうがの生産拡大